

令和7年度第2回 岡山大学第4期中期目標・中期計画  
「教育に関する目標を達成するための措置」に関する外部評価報告書

## 1. 総評

令和7年度第2回外部評価委員会で行われた令和7年度実施状況説明と質疑により、第4期中期目標・中期計画の達成に向け、教育改革がいつそう具体化し、拡大進行していることを把握できた。特に今年度から開始された新カリキュラム(Target2025)を堅実に運営していることと、令和6年度実施状況に対する外部評価委員会意見への回答となる様々な施策を実行していることを高く評価したい。新規開講科目「知の探研」担当教員の全学出動態勢を筆頭に協働的・対話的学びの専門教育への波及が進展していること、ならびに学校推薦型選抜・総合型選抜で入学した学生に「探究親和型」の比率が非常に高いことが明らかとなった(両選抜が良好に機能していることを示唆する)ことも高く評価できる。さらに、教学にかかる副学長2名が増員されたことは教学マネジメント体制の充実として非常に望ましいことである。しかしながら、新たに設けられた委員会の活動や様々な教育に関する分析・検討・改善の活動が増加することに対応するには、令和6年度外部評価報告書で指摘したように、大学執行部主導による、兼務・兼任でない教員等の配置の増加が不可欠であろう。令和7年度までの成果を基盤とし、内容の充実を含む改善の過程を継続し、成果を可視化し、教学マネジメントサイクルを恒常的に着実に回し続けていくことが重要である。

報告会と質疑の各項目について述べる。なお、詳細なコメントは2～6節(後述)に譲る。

### 【教学マネジメント】

令和5年度外部評価報告書で、大学執行部交代に伴い減員となっていた教学担当副学長の補充は教学マネジメント体制の健全化に不可欠であることを指摘していた。今年度2名の増員があったことを評価したい。学士課程教育運営委員会を設置したこと、FDの企画・運営を部会・科目班、教学企画室に移したこと、また「大学入学までの学習経験とこれからの学びに関する調査調査(B1B2調査)」の実施・分析を通じて分析・検討・改善PDCAサイクルの「Check→Action」というフェーズ移行が始まっていることも特筆に値する。しかしながら、教学マネジメント体制の確立とともに教育改革PDCAサイクルが回転し始め、様々な新たな取組が開始されたことにより、担当組織の担う作業量は超過気味であるように見える。継続的かつ安定的に運営できうるのか、危惧される。教育改革に携わる教員等の増員、もしくは取組の実施順の整理が必要であろう。

### 【入学者選抜】

部局の入試への取組に教育推進機構が積極的に関与していく実行スケジュール(各部局が入学者選抜を振り返り、教育推進機構入試・高大接続部門がそれを確認・ヒアリングし、入学者選

抜の改善のための意見交換・情報共有会でフィードバックする)が報告された。令和6年度外部評価報告書で説明を求めていた、入試の検証・確認における部局との強い連携・協働について方向性が明らかとなったことは評価できる。また、入学前教育について、実施部局数が増えていること、さらに新設の高等学校等との教育連携推進会議を通じて全学的に実施内容の把握・共有が図られていることが報告された。全学的な拡がりへ向け着実に進展していることも評価したい。

#### 【学士課程教育】

新たな課題探究科目「知の探研」を旗頭とする、新学習指導要領の下で高校教育を受けた令和7年度入学者を見据えた新カリキュラム(Target2025)を本年度より開始したことは重要な教育改革の成果である。さらに、教育推進機構と連携して学士課程教育運営にあたる全学委員会(学士課程教育運営委員会)を新設し、履修・単位取得状況の定期的な確認や授業評価アンケートの実施などによる履修・開講状況の把握を行うなど、教育改革を持続的に推進・検証・改善する営みを行っている。加えて、「知の探研」ではアンケート調査だけでなく、上席副学長との意見交換会、教育推進機構FDが開催されるなど非常に手厚い検証・改善が行われている。これらは極めて高く評価できる。進行中の同一科目・多クラス開講授業でのクラス間のばらつきを減らす取組は継続的に推進することを希望する。

#### 【大学院教育・LMS】

修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程の2年次修了学生に対するアンケートから、「リーダーシップとSDGs」、「プロジェクト・マネジメント実習」、「プラクティカム」に一定数の学生が満足していることがうかがえるが、この比率をより高められるように継続的に内容の充実を図ることが望まれる。LMSに関しては、学修ポートフォリオシステムの充実と有効活用などに加え、LMS機能の活用層をさらに広めることを来年度以降に期待したい。さらに、認定教授補助者制度を通じて、「知の探研」と「リーダーシップとSDGs」の相乗的な深化を図ることは興味深い取組であり、「リーダーシップとSDGs(実践)」の更なる修了者増が望まれる。